

12月4日から10日まで 人権週間です

人権週間は、「世界人権宣言」が1948年12月10日に国連で採択され、これを記念して定められたものです。

世界人権宣言は、基本的人権の尊重を原則として定められたもので、誕生以来世界各国の憲法や法律に取り入れられるなど、世界の人々の人権養護のために大きな働きをしています。

須恵中学校、須恵東中学校の生徒が人権についての作文を書き、それぞれの学校生徒作品の優秀なものをご紹介します。

「うまく言葉を伝えられない子どもと、親との関係は？」

須恵東中学校三年 太田 真由

最近「児童虐待」のニュースが多くなってきたと感じます。虐待される子どもは多くは、まだ上手に話すことができない幼児です。

私は、中学一年生の時に、二日間の保育体験をしました。虐待のニュースを聞くたびに、そのとき子どもたちとふれあつて学んだことを思い出します。

一歳児クラスの子どもは、まだ話すことができなくて、ずっと泣いていました。保育士さんから「子どもが泣くには意味があるの。ゆっくりわかつてあげることが大事なよ。」と教わりました。オムツを替えてほしいとき、ミルクが飲みたいとき、抱っこしてもらいたいとき…理由はたくさんあります。

私たちは、話すことができます。自分の考えや気持ちを言葉で伝えることができます。でも、話すことが

できない子どもにとって、泣くことは相手に思いを伝える方法、つまり私たちが話すことと同じなのだと思います。

我が子を虐待した親が、「泣き止まないから、うるさいから。」とその理由を話したそうです。話すことのできない子どもが必死に泣き、何かを伝えようとしているにも関わらず、虐待し、時に命まで奪つてしまふ親たち。一体どのような思いで子どもを産んだのでしょうか。私はまだ出産経験がないので分らないこともありますが、すごく苦しい思いをして産んだのだから、かわいくて仕方がないのではないのでしょうか。

中学三年の私でも、親に言いたいことがうまく言えずにむずむずすることがあります。そのときは、「どうやって分かつてもらおうか、どうしたらうまく伝わるかな」と考えまふ。伝える方法は人それぞれ違っていても、必ず誰かが分かってくれらると私は思います。それが母だったり父や兄妹だったり、友達だったりするかもしれない。では、幼い子どもにとってはどうでしょうか。

いちばん身近にいて、いちばん理解してほしいと思つている相手は、家族。特にお腹を痛めて産んでくれた母親ではないでしょうか。この「いちばん」の人から虐待を受けた子ども

もの心の傷はいったいどうなるのでしょうか。体の傷は、時間がたてば治る可能性がありますが。でも、心の傷は、特に幼い頃に受けた心の傷は、一生消えることがないという話を聞いたことがあります。もしそうだとしたら、最近の虐待のニュースの多さが怖くなつてきます。

私は、嫌なことがあつても、家に帰ればとても癒されます。家族が笑ってくれると元気が出ます。最近では、家に帰るのが嫌で悩んでいる子どもが増えているという話も聞いたことがあります。虐待がなくなくなり、家に帰ることを悩む子どもがいなくなることを願つて、これからも自分の思いを発信していきたいと思つています。

「親子」は、一番身近な関係です。うまく言葉で伝えられない子どもを、ゆっくりと分かつてあげられる人、分かり合うためにいちばんがられる人、それが親だと思います。



「介護のあたたかさ」

須恵中学校二年 岡山 凜里花

私は去年と今年の二回夏休みに『中学生体験ワークキャンプ』に参加した。参加した理由は、夏休みにも色々な体験をしてみたかったからだ。二日間という短い期間だったが、私はとても貴重な体験をすることができた。

私の『介護』のイメージというのは、高齢者をお世話する大変な仕事としか思いつかなかった。しかし、私は逆に普段体験できないようなことがボランティアとして体験できると聞いて、「体験してみたい！」と思った。正直、一人で行くのは不安だったので友達をもう一人誘つた。友達と「二日間頑張ろうね!!」と、少しワクワクしながら当日を待っていた。

そして当日。集合場所に行くと、私の学校からは七人ぐらいしか参加してはなかったが、他の学校からはたくさん参加者がいてびっくりした。病院でのマナーや注意を受け、期待と不安でいっぱいのまま車に乗り出発した。

病院に着き早速、各部屋を見学することになった。家族がいない人、病気をもっている人、心に傷を負っている人など細かく部屋が分けられていて感心した。

次に私が体験してみたかった『も

し目が見えなくなつたら』という体験をすることになった。一人はアイマスクをつけ、もう一人は目の見えない人を誘導する、という役割にして二人で協力しながら階段を上つたり下りたりするという体験だ。私はアイマスクをつけた。周りは真っ暗だ。階段を下りる時、足元を気にしながら一段ずつ階段を下りて行く。

いつもは一段とばして下りていけるはずだが無理だ。目の見えない人の苦労と不安が良く分かる。その後も車椅子の体験や高齢者の服の着せ替えなどの体験もした。もうこの時点でヘトヘトになっていた。

昼食の時間は高齢者に食べさせてあげなくてはならなかった。今までで初めての高齢者との交流だ。私の担当の高齢者は元気で健康なおばあさんだったが、他にはいろいろな人がいた。体の半分がマヒして動かない人、認知症の人もいた。

最初はとても緊張と不安でいっぱいだったが、おばあさんはとても優しく接してくれた。私が「何かお手伝いすることはありますか？」と聞くとおばあさんは「手伝わなくていいからお話をしてほしい。」と言われた。このおばあさんには家族がいないことに気がついた。だから、私は学校の事などを話した。おばあさんはすごく楽しそうに笑つたりして、私もその笑顔を見て心

が温まつた。反対におばあさんから話を聞かせてもらったとき、こう言つていた。「孫がもどつてきたみたい。」と。このおばあさんのお孫さんは病気で亡くなつたらしい。お孫さんの話をたくさん聞かせてもらい、一つ気づいたことがあつた。おばあさんが泣いている。その涙はさみしくも温かくも涙のように見えた。最後におばあさんからこう言われた。「色々な経験をして立派な大人になつてね。」と。私は「はい、必ず立派な大人になつてみせます。」と言つた。こうして昼食時間は終わった。

このおばあさんとの会話で私の『介護』のイメージはずいぶん変わった。介護はお世話するだけではない。大変なだけではない。とても温かい仕事だ。高齢者だけの施設だが、それは色々な人の集まりで、たくさんのお話と笑顔のある温かい施設だ。だから、介護に対して悪いイメージをもたないでほしいと思つた。

私はとても貴重な体験をすることができた。たった二日間だったが介護の良さをたくさん学んだ。夏休みで一番の勉強になつた。私はまた来年の夏休みも介護体験に行くつもりだ。きつと来年も別の事を学び、他の大切な事も学ぼう。もつとこれからも色々な体験に参加し、たくさん

福岡県「新卒者緊急就職応援事業」のお知らせ

仕事が決まらない人を福岡県とマンパワー・ジャパン(株)が応援します。まずはお電話を！

▼事業対象者 新規学卒未就職者など(平成20年3月以降に大学、短大、高専、高校を卒業し、現在就業していない人)

▼費用 無料
▼内容 次の①～④の体験を通して雇用を応援します。

① キャリアカウンセリング(1対1のカウンセリングでプランを考えます。)

② 体験先の決定(職場体験先はカウンセリングの上、決定します。)

③ 1週間の基礎研修(ヒューマンスキル向上研修、ビジネスマナー研修、履歴書記入などの指導など)

④ 7週間の企業実習(専属担当によるフォローアップがあるから安心です。)

※③・④の期間は、給与・交通費が支給されます。

▼問合せ先・申込み先 マンパワー・ジャパン(株)福岡支店
0120・640・621
▼県所管 福岡県 福祉労働部 労働局労働政策課 就業支援係